

研究主題

「自ら考え、伝え合う子の育成」

1 研究主題設定の理由

本校は、今年度も研究主題を「自ら考え、伝え合う子の育成」とし、国語科を通して、学ぶことに興味や関心を持ち、見通しをもって粘り強く取り組み、お互いに考えを伝え合ったり、教材とじっくり向き合ったりすることで、新たな考えに気付いたり、考えをより妥当なものにしたりする主体的・対話的な学びの姿を目指して研究を進めてきた。昨年の研究の重点1【主体的な学びのための手立て】では、付けたい力や単元・授業のゴールを明確にしたり、導入を工夫したり、目的や相手意識を明確にしたりすることで、「やってみたい！考えてみたい！」という意欲をもって取り組む児童が増えてきた。また、個人思考の際には、最初に考えの具体例を示したり、実物や具体物、ICTを活用したりすることで、児童が見通しをもち、自分の考えをもつことができるようになってきている。

重点2【対話的な学びのための手立て】では、交流の目的（考えをはっきりさせる・増やす・詳しくする など）を明確にしたり、交流のモデルを示したりすることで、児童が必要感をもち、積極的に交流する姿が見られた。交流時に、「キャッチボール言葉（どうして？どこから？もう少し詳しく教えて。私も…と思ったよ。でも…だと思おうよ。）」を活用するよう促したり、よい交流の姿を価値づけたりすることで、考えが深まる交流を目指してきた。また、交流の中で得た友達の考えを取り入れたり、もう一度教材や自分の考えを見直したりする時間を確保することで、考えの変容を実感できるように働きかけてきた。

重点3【主体的・対話的な学びにつながる効果的なICT活用】では、ICTを活用した授業を積極的に取り入れ、教師・児童のICT活用スキルを向上させることができた。また、活用場面や方法が効果的であったか吟味することで、効果的にICTを活用した授業について研究を重ねている。

しかし、一定の成果が見られる一方で、本校の課題として挙げられたのは、すべての児童が必要感をもち、自分の考えをもつことができるようにすることである。すべての児童が自分自身の見通しをもって粘り強く学習に取り組んでいくこと（個別最適な学び）につなげるためには、子どもたち一人一人の特性や興味関心、目標を把握し、個に応じた支援や手立てを考えていくことが重要であることがわかってきた。また、考えを交流することで、新たな学びに気づき、考えを広げたり深めたりすることは十分であるとは言えず、教師の深めの発問を吟味する必要性を感じている。

したがって、今年度も引き続き、研究主題を「自ら考え、伝え合う子の育成」とし、多様な個性の子どもたちに応じて、必要とされる手立て「個別最適な学びのための手立て」と、異なる考えを組み合わせることでよりよい考えを生み出すための手立て「協働的な学びのための手立て」を研究していく。また、2つの学びにつながる意図的・効果的なICT活用も併せて研究していくことで、子どもたちの深い学びにつなげていきたい。

- ① 個別最適な学びのための手立て
- ② 協働的な学びのための手立て

2 研究構想図

〔教育目標〕 自ら学び 心豊かで たくましい子 の育成

研究主題 「**自ら考え、伝え合う子の育成**」

— めざす児童の姿 —
①既習や生活経験を生かし、自ら考えようとする姿
②考えを伝え合い、高め合おうとする子

研究の重点
① 個別最適な学びのための手立て
② 協働的な学びのための手立て

なるほど！わかった！
できた！すっきり！
他の場面でも確かめてみたい！
最初は…だったけど、…だとわかったよ。

「…と思います。…と書いてあるという
ことは、…だからです。」
友達の考えを取り入れてみよう。
もう一度資料を見直して考えよう。
友達の考えをもとに新たな考えが
出てきたよ。

生活で似た経験があるよ。
あの時の学習が使えるかな。
…に目をつけると…。
考えを整理してみよう。
～の方法で解決してみたいな。

どうして？何だろう？
解いてみたい！
今日のゴールは…だ。

まとめ
ふり返り

深める

自力解決

課題把握

生徒指導の4つの視点を生かした授業づくり

自己決定
の場の提供

自己存在感
の感受

共感的な人間関係
の育成

安心・安全な風土の醸成